

ハエドクソウ科 ハエドクソウ属

ハエドクソウ (蠅毒草)

Phryma leptostachya L. subsp. *asiatica* (H.Hara) Kitam.

自生環境

林内 など

原産地

日本在来

生育を脅かす要因



身近な場所に普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし「林の植物」なので、林の伐採や荒廃などにより、生育環境は、あまり良好とは言い難いのが現状です。

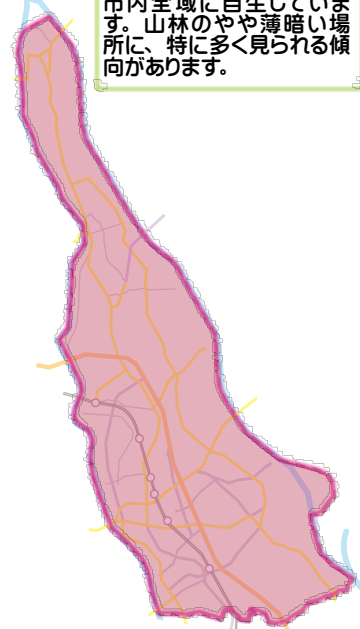
特徴

☆ 林の中に生える多年草です。市内ではごく普通に見られ、しばしば群生しています。花は7～8月頃で、少しピンクがかった白色です。穂は長くのびて数十 cm にもなりますが、花はとても小さくせいぜい 5mm 程度、しかも開くのは先端の数個程度です。そのため見落としがちで、撮影にも苦労させられる草と言えます。

☆ 果実の先には 3 本の刺があり、これで洋服や動物の体にくっつきます。人や動物の移動の力を借りて、自分のタネを少しでも遠くまで運ぼうとする作戦です。タネの発芽率は高く、実生でどんどん増えていきます。

市内の分布状況

市内全域に自生しています。山林のやや薄暗い場所に、特に多く見られる傾向があります。



ハエ取り紙の草

かつて、ハエドクソウの根を煮出した汁を吸い取り紙に吸わせて、ハエ取り紙を作った地域があると言います。これがハエドクソウの名前の由来となっています。これがハエドクソウの名前の由来となっていて、ハエドクソウの別名で呼ばれることもあります。この成分は人間にとっても有毒で、食べると中毒を起こすおそれがあります。とはいえ、ふつうに接触するぶんには大丈夫です。



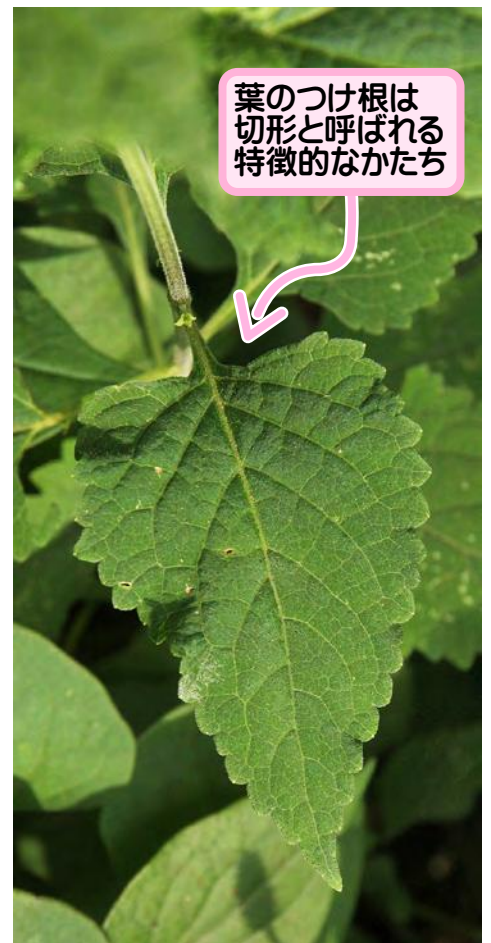
花の穂はすつとのび、枝分かれしない



花はくちびるのような形



果実の先に赤い刺が3本



葉のつけ根は切形と呼ばれる特徴的なかたち



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

